



仙台市内で開催された「いい歯と健康」市民講座

## 良質な歯科医療で健康長寿 「いい歯と健康」市民講座

保団連も参加する「保  
険で良い歯科医療」全国  
連絡会は、イレバターの  
10月8日、仙台市内で「い  
い歯と健康」市民講座を  
開催した。歯科医療従事  
者をはじめ市民ら134  
人が参加した。

保団連の宇佐美宏歯科  
代表は「東日本大震災で  
被災地の医療支援も経験  
し、今回仙台の市民を招  
いて口腔の健康の役割を  
学びあう市民講座を開催  
した」と挨拶した。  
市民講座では神戸常盤  
大学短期大学の足立了  
平教授が「健康は健口か

ら一口と全身の意外な関  
係」と題して記念講演を  
行った。足立氏は「健康  
長寿」を保つためにも歯  
科医療が重要だとして、  
口腔ケアと全身疾患の関  
係を発信していくこと、  
安全性が確立し、一般に  
普及した歯科医療を保険  
収載し、すべての国民が  
良質な歯科医療を受けら  
れるようにすることが必  
要と述べた。

また、宮城県・松島で  
歯科医院を開業する井上  
博之保団連理事（宮城県  
保険医協会副理事長）が、  
「大震災にも負けない健

康な口づくり」と題して  
講演。東日本大震災被災  
者の歯科支援の経験か  
ら、大規模災害時の歯科  
支援の重要性を強調する  
とともに、お金の心配が  
ない「保険で良い歯科医  
療」の実現をめざして連  
絡会が50万筆を目標に取  
り組んでいる国会請願署  
名への協力を訴えた。

このほか一般市民を対  
象にした「正しい歯の磨  
き方」講座では、歯科衛  
生士が参加者一人一人に  
正しい歯の磨き方を指導  
した。（詳細は次号）

# 「いい歯と健康」市民講座を仙台で 「保険で良い歯科医療を」全国連絡会

保団連は10月8日から11月8日までの1カ月間を「イレバデーからイヤデー」特別月間とし、全国各地で運動に取り組んでいる。この運動の一環として、今年はいレバデーの10月8日に保団連も参加する「保険で良い歯科医療」全国連絡会は東日本震災で甚大な被害にあった仙台市内で、大切な歯科医療、口腔ケアの役割など市民とともに学びあう市民講座を開催し、134人が参加した。

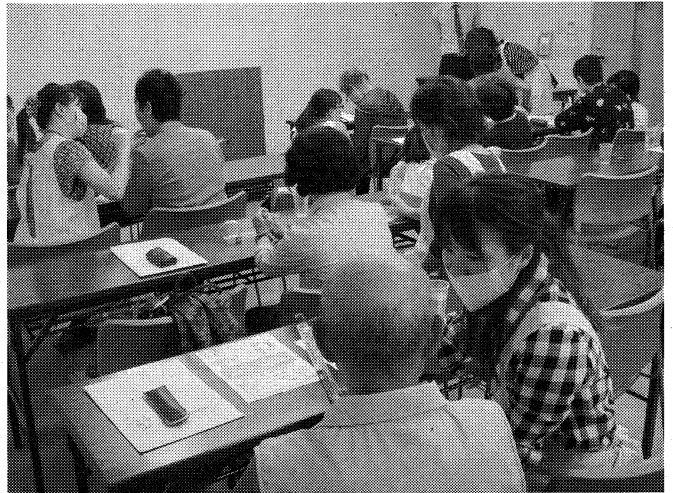
## 教室一杯の歯磨き教室

講座の第1部では「正しい歯の磨き方」教室を開催した。1人の参加者に1人ずつ歯科衛生士が付き添い、正しい歯の磨き方を丁寧に教えた。歯ブラシ、キシリトールガムを配布し教室がいっぱいになるほどの好評で市民22人が参加した。

第2部は「こんなに大切、歯とお口の健康」と題し、保団連の宇佐美宏歯科代表は「東日本震災で被災地の医療支援も経験し、今回仙台の市民を招いて口腔の健康の役割を学びあう市民講座を開催した」と挨拶した。

神戸常盤大学短期大学の足立平教授が「健康は健口から」と題した意外な関係」と題した講演を行った。足立氏は「よく噛むことが大切であり、噛むことで脳が活性化される。このため、歯が抜けぬように定期歯科健診での予防と早期発見・早期治療が大切であり、窓口負担を引き下げることによって歯科の受診が行いやすくなり、被災者の状況を具体的に。また阪神淡路大震災の経験も交えながら、震災後に誤嚥性肺炎で多くの被災者が亡くなった。誤嚥性肺炎を防ぐには、被災者に対する歯科医療、特に口腔ケアの役割が大切であり口腔ケアは命を守るケアと述べた。

井上博之保団連理事(宮城県保険医協会副理事長)は、「大震災にも負



盛況となった正しい歯の磨き方教室

けない健康な口づくり」と題して講演し、東日本大震災被災者の歯科支援の経験から、大規模災害時の被災者の状況を具体的に

的に説明しながら歯科支援の重要性を強調した。また、支払基金のデーターを基に被災地で今、歯科の受診が増え「歯科ブーム」が起きている。この背景は被災者は窓口負担がゼロ円であるためとして、高い窓口負担が歯科受診を抑制してきていると指摘した。

フロアー討論では、歯科医師、歯科衛生士からの現地支援の経験、宮城協会の歯科医師から協会が行っている被災者の窓口負担免除の延長を求める署名活動の紹介と協力が訴えられた。

講座終了後は歯科医師による「お口の何でも相談」も行われ、8人の市民の相談を行った。



講演する足立教授